



清瀬の杜

令和6年1月号
令和6年1月10日
校長 佐藤 明子

<http://www.kiyose.ed.jp/kiyosetyuugakkou/index.html>



暁に祈る

～防災教育を《命の週間》で取り組むにあたって～

校長 佐藤 明子

新年あけましておめでとうございます。

昨日より、1年で最も短い3学期が開始しました。40日程度の授業日ですが、3年生は、進路の最終決定をしていく高校入試が本格的になったり、1・2年生にとっても、令和5年度の1年間の締めくくりを様々な場面で行ったりと、生徒たちにとっては、大切な時間が続きます。今学期も、教育活動の一層の充実と発展に努めてまいりますので、引き続き、ご支援のほどよろしくお祈りいたします。

令和6年1月1日 元旦、東京に住む私たちにとってこの日は、例年にない暖かい天候に恵まれ、和やかに新年を迎えました。コロナも5類扱いになり、各地で、人が行き交う4年ぶりの賑わいに、歓喜に溢れた幕開けでした。

その矢先の夕刻16時10分、事態は一転しました。東京においても、長く大きい横揺れに、12年前の東日本大震災の記憶を思い出した人も少なくなかったことでしょう。石川県能登地方を震源とする地震ー令和6年能登半島地震が発災しました。思いがけない被害に遭われた方々におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。また、復旧・復興にご尽力されている方々には、くれぐれも安全に留意され、ご活躍されることをお祈りするとともに、一日も早く、皆様に、平穏な生活が戻ってくることをお祈りいたします。

さて本校では、昨年度より、3学期の《命の週間》において、防災とボランティア週間（1月15日～21日）と同時期であることから、防災教育に関する取組を実施しています。今年度は、1月15日（月）6校時に、防災教育講演会を開催し、岩手県釜石市の『いのちをつなぐ未来館』の語り部 川崎 杏樹（かわさき あき）さんより、講演していただきます。

震災当時に川崎さんが通学していた釜石東中学校と、隣の鶉住居（うのすまい）小学校は、津波で全壊したものの児童・生徒 570 人（99.8%）が高台に避難し、生き残ることができました。震災直後は、『釜石の奇跡』と呼ばれていましたが、今は、その背景に徹底した防災教育があったことが知られ、『奇跡』ではなく、『釜石の出来事』として語り継がれています。川崎さんはこれまでの語り部の中でも、「奇跡」という言葉はあり得ないことがおきるというイメージです。この『出来事』は、防災教育をやってきた結果だと思うので、何もやっていない学校が助かったなら『奇跡』ですが、私たちの防災教育も見てほしいです。」と話されています。

この『釜石の出来事』は、日常の避難訓練で学んだことを生かして身に付けた主体的な判断と行動が、自分の命だけでなく、周りの多くの命を救ったといわれています。知識としての『安全』を受け身としてではなく、自分の命を守り、さらに社会の一員として意識して行動する「助けられる人から助ける人へ」の転換が、一人では生きることができない人間にとって、私たちの生き方そのものにも通じるものになったのではないかと感じます。

防災教育講演会に向けて年末に、防災・減災に関するアンケートを全校生徒対象に行いました。15日（月）は、その内容を活かしながら、講演を通じて生徒たちには、自助＜自分の命は自分で守る＞、共助＜地域の安全はみんなで守る＞について深く考えさせ、防災・減災の取組が推進されるようになってほしいと願っています。ご家庭におかれましても、学んだことが学校だけでなく、生活の拠点で行われることを踏まえて、話題にさせていただきたく存じます。

【東京くらし防災・東京防災】を使い、家族で話してみませんか

災害から自分の命や大切な人を守るためには、日頃からの備えと発生時の冷静な判断と素早い行動が不可欠です。関東大震災100年の節目を契機とした自助・共助の更さらなる促進を図ることから、内容をリニューアルし、昨年11月1日、ガイドブックが東京都内の全世帯に配布されました。いざという時の集会所や家庭の備蓄等、冊子を使ってご家族で確認してみてください。



◆◆◆ 1月の生活目標 ◆◆◆

「泰然自若」 新しい年の計画をあって、充実した学校生活を送ろう！